

子どもとペット

ジョナサン・ベネディクト

「ママ、見て、見て！ 子犬だよ！
すつごいかわいいよ、ママ。ねえねえ、
買って、買って！ いいでしょ？」

母親ならだれでも、子どもにペットを
せがまれたことが1度や2度はあること
でしょう。そして大抵「ダメ」と答える
のです。父親は子ども側に立つて、ペッ
トがいたほうが家庭が楽しくなると思っ
ようですが、母親は、ペットを飼えばも
う一人世話をする赤ちゃんが増えるよう
なもので、仕事が増え、家がさらに散ら
かり、近所とのトラブルのもとになると
考えるようです。

皆さんの中には、「だったらなぜ、ベ
ネディクト家では10人も子どもがいる
上に、3匹の猫に犬1匹と熱帯魚を飼っ
ているのか」と聞く方がいらっしやるで
しょう。これは、妻に子どもの頃のペッ
トとの楽しい思い出があることも大きい
ですが、田舎に住んでいるのが一番の理
由でしょう。

今回はペットを飼うメリットについて
取り上げます。場所やアレルギーなどで
飼えない場合をのぞいて、ペットを飼う
ことは子どもにとっていくつか利点があ
ります。

●健康面のメリット

まず、健康面についてですが、アレル
ギーに関しては、ペットを飼ったほうが
よいという逆説もあります。ある研究で
は、1歳までの間に2匹以上の猫か犬と
暮らしたことがある人は、アレルギーや
喘息のリスクが低いことがわかっていま
す。ペットを飼うことで、特に都心の環
境において、自然に近づくことができま
す。ペットは子どもの心拍数と血圧を下
げ、ストレスを減らし、多動児には集中
力がつき、子どもがスポーツ、クラブ活
動、お手伝いなども活発にするようにな
るそうです。

●人格形成上のメリット

次に、子どもの人格形成の上でも、ペッ
トは役に立ちます。日々の散歩や餌やり
などで、子どもたちは責任感を持つよう
になります。うちの四女は毎日犬に餌を
やり、散歩に連れて行きます。そして自
分ができない時は他の兄弟に頼むか、親
に頼むようにしています。彼女はうちの
子どもの中で動物を大切にしている気が
一番強く、人間の命の尊厳も一番敏感に
感じる子どもです。

ペットを触ることで、愛情を持つこと
を学び、自分より弱い立場の者をいた
わる気持ちも育まれます。ペットの一生
は短いので、老いや死に直面したときの

感情の対処も学べます。子どもが学校で
つらいことがあった時、何も言わず喜ん
で家に迎えてくれるペットの存在ほど、
ほっとするものはありません。だれかか
ら無条件で受け入れ、愛される喜びを教
えてくれるのです。

私自身、ペットから人生の教訓を教
わったことがあります。5年前、友人か
ら「町では飼えないから」と、サムとい
う犬を譲り受けました。当時まだ1歳く
らいだったのですが、飼いはじめてすぐ
に、子犬のときにトラウマにあったいた
だろうということに気がつきました。そ
れほど普通ではなかったのです。

サムは、雨が降っていようが雪が降っ
ていようが、犬小屋に入ることを嫌がり、
餌を差し出す人にもおびえた態度をとっ
ていました。とても神経質で、不安なこ
とがあればブルブル震え、餌の入ったお
皿とリードが触れてチリーンと鳴っただ
けで飛び上がりました。サムは私に、神
様が怖がりの人間をどう見ているのか、
また人間の信頼を得るためにどれだけ忍
耐強く待つてくださるのかを学ばせてく
れました。

●その他のメリット

その他、ペットを飼う利点ですが、兄弟
が少なかつたり、一人っ子の家庭では、
ペットが大切な遊び相手になることもあ

ります。そして猫や犬を飼うことは、純
粋に楽しいことですし、家庭に笑いをも
たらしめます。

もちろん、嫌な時もありますね。例え
ば、スーツに毛が着くとか、朝起きて
食卓の下に食べ残した野ネズミの一部が
あったりとか。しかし、飼っている猫が
走り回つてものを追いかけてたりするの
見るのは、本当に楽しいものです。

聖書では犬は叱責されるものの象徴で
すが、現代では人間の良き友となってい
ます。ペットは私たちの社会に欠くこと
のできない存在であり、ペットのいない
世界など想像もつきません。犬はとても
役に立つ動物で、番犬や盲導犬になり、
そりを引き、麻薬を探し当て、泥棒を追
い詰め、狩猟の手助け、災害救助、また
医学治療の分野においては匂いを嗅ぐだ
けで癌を見つけられる犬もいます。

それでは、犬は神様について私たちに
何を教えてくれるのでしょうか。犬はど
んな状況下においても飼い主を信頼する
生き物です。この性質は私たちの子ども
たちに、神さまだけでなく、結婚相手や
周りの人々にも誠実であることの大切さ
を教えてくれます。